

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2024年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	専門演習 I		
担当者(Instructors)	水野 伸子	配当年次(Dividend year)	3
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	必修

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

研究テーマの設定方法や研究手法を先行文献より理解する。資料収集の方法を実践的に学ぶ。音を介した保育や教育の実践例を発達の観点から問い直し、活動の意義を理解する。これら一連の活動を通して、将来、社会人として求められる論理的な思考力や文章力、仲間と協働する対人関係能力を養う。全体による対面授業と個別のオンライン授業とを併用させて研究指導を行う。提出された課題は添削しコメントをつけて返し、授業での授業者による講評及び学生間の意見交流等を経て課題の理解を深める。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	各自が研究を進めるなかで、課題に対しディスカッションやグループワークを用い、必要に応じてフィールドワークを行う。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	本授業の意義の理解と自己の課題の設定	本授業の意義を理解し、自己の課題を設定する	<input type="checkbox"/>
第2回	研究の意義	大学生が研究する意義を、多面的に考える	<input type="checkbox"/>
第3回	研究テーマ：設定方法の理解	各自の疑問や社会の現状から、研究テーマがどのように設定されているのかを文献から理解する	<input type="checkbox"/>
第4回	研究テーマ：先行研究の検討	先行研究では、研究テーマがどのように設定されているのかを知る	<input type="checkbox"/>
第5回	資料収集：本を読む技術	研究するための基礎となる本を読む技術について文献から学ぶ	<input type="checkbox"/>
第6回	情報検索ガイダンス：文献検索の方法	資料収集するにあたり文献検索の方法を再確認する	<input type="checkbox"/>
第7回	先行文献調査：音を介した保育の文献要約	音を介した保育の文献を要約し研究方法を学ぶ	<input type="checkbox"/>
第8回	先行文献調査：音を介した教育の文献要約	音を介した教育の文献を要約し研究方法を学ぶ	<input type="checkbox"/>
第9回	先行文献調査：文献資料の検索結果の交流	個々に取り組んだ文献資料の検索結果を交流する	<input type="checkbox"/>
第10回	フィールドワーク：観察法・ノーツ	フィールドワーク：調査方法・観察法・フィールドノーツの書き方を理解する	<input type="checkbox"/>
第11回	フィールドワーク：現地調査	フィールドワーク：現地調査を行う	<input type="checkbox"/>
第12回	フィールドワーク：結果の交流	フィールドワーク：結果を交流する	<input type="checkbox"/>
第13回	結果の書き方	研究結果の記述の仕方を学ぶ	<input type="checkbox"/>
第14回	結果の検討	研究結果を検討し考察する方法を理解する	<input type="checkbox"/>
第15回	研究成果の交流	研究成果を交流し、課題を整理する	<input type="checkbox"/>

■授業時間外学習(予習・復習)の内容(Preparation/review details)

事前学習として、研究目的に沿った先行文献を読み、項目ごとに要約する(2時間程度)。事後学習として、授業で明らかになった課題を解決するために先行文献を読んだり、文章を推敲したりする(2時間程度)。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

提出された課題は添削しコメントをつけて返却する。

■授業の到達目標と評価基準 (Course goals)		
区分 (Division)	DP区分 (DP division)	内容 (DP contents)
知識・技能	◆ 2019子ども発達DP1	自らの興味関心をもとに社会の現状から問題意識を持ち研究課題を立てることができる
思考力・判断力・表現力	◇ 2019子ども発達DP2	社会の現状や保育・教育の実態から課題を見だし、その原因を先行文献や調査結果をもとに分析することができる
主体性	◇ 2019子ども発達DP3	先行文献から他者の主張を理解し、自分の考えを修正したり深めたりして記述することができる

■成績評価 (Evaluation method)				
筆記試験 (Written exam)	実技試験 (Practical exam)	レポート試験 (Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他 (Other)
			50%	50%
授業内試験等 (具体的内容) (Specific contents) その他：課題レポート				

■テキスト (Textbooks)		
No. (No.)	テキスト名など (Text name)	ISBN (ISBN)
1	個別に指示をする	
2		
3		
4		
5		

■参考図書 (references books)		
No. (No.)	テキスト名など (Text name)	ISBN (ISBN)
1		
2		
3		
4		
5		